

教育研究等活動業績

山梨英和大学

フリガナ 氏名	性別	生年(西暦) (公表可否)	職名	所属
タカミ ケンイチ 高見 研一	男	1960年	専任講師 (特任)	人間文化学部人間文化学科
取得学位称号	文学修士	専門分野	日本語・日本文学	
学歴	1986年 3月 早稲田大学第一文学部フランス文学専修卒業 1993年 3月 早稲田大学大学院文学研究科日本文学専攻修士課程修了			
実務経験	1986年 4月 サンシャイン外語学校日本語学科専任講師(1900年9月まで、その後2001年まで非常勤講師) 1994年 4月 立正大学非常勤講師(2007年まで) 1995年 3月 インターンシップ・プログラム非常勤講師(2000年まで) 2000年 10月 日本外国語専門学校非常勤講師(2009年まで) 2001年 1月 城西国際大学非常勤講師 2001 4月 山梨英和短期大学非常勤講師(2003年まで) 2002 4月 山梨英和大学非常勤講師(2020年まで) 2006 4月 明星大学非常勤講師 2007 4月 都留文科大学非常勤講師 2020 4月 山梨英和大学専任講師(特任)			
受賞歴	年 月 年 月 年 月			
所属学会	1989年 4月 早稲田大学国文学会 1995年 4月 日本語教育学会			
特免資格 等・・・	年 月 年 月 年 月 年 月			
e-mail	kentakami@yamanashi-eiwa.ac.jp			

目 次

○教育業績

教育理念、方針、方法

教育能力

教育方法実践例

作成した教科書、教材等

教育方法や実践に関する発表、講演等

担当授業科目

代表的なシラバス

教育改善活動

教育能力に対する評価

○研究業績

研究の特徴

研究経歴

研究実績

著書

学術論文

その他の研究活動

競争的資金採択課題

学会等発表、役員参加

共同研究・受託研究の実績

大学院生指導

研究能力に対する評価

○サービス活動業績

学内委員会・作業部会等活動実績

アドバイザー活動実績

後進育成活動実績

社会貢献活動

○専門的活動(教育業績、研究業績、サービス活動業績)の統合による成果と目標

専門的成果

専門的目標

○添付資料

完全リスト(研究実績、競争的資金採択課題、学会等発表・役員参加、共同研究・受託研究の実績、
学内委員会・作業部会活動実績)

サンプル(教育能力、代表的なシラバス、教育改善活動、大学院生指導、アドバイザー活動実績、
後進育成活動実績、社会貢献活動)

評価結果(教育能力に対する評価、研究能力に対する評価)

専門的成果のエビデンス

教育業績

教育理念、方針、方法	日本語教育を中心に、ことばを通して人間や文化、社会や世界への認識を深めていくような教育を継続していきたいと思っています。
教育能力	<p>(1)教育方法実践例</p> <p>初級から上級まですべてのレベルを繰り返し担当。内容も読解・文法・聴解・文字語彙・作文・小論文・アカデミック・ジャパニーズ、ビジネス日本語など日本語能力に関わるほぼすべてのスキルについての授業を担当。中上級レベルの読解を担当することが多く、新聞記事や社説・コラム、短編小説やエッセイ、新書レベルの教養書、映画やアニメーション、JPOPの歌詞など多種多様な教材を編集作成して指導にあたっている。大学院進学希望者や大学院研究生が在籍するクラスでは、研究計画書の書き方、論文読解やレポートの添削指導なども行っている。ビジネス日本語では、就活対策や電話応対などの基本スキルを指導する他に新聞の経済記事を読んでその背景を理解、議論するなどの授業も行っている。</p> <p>(2)作成した教科書、教材等 「上級読本」(共著、サンシャイン外語学校)</p> <p>(3)教育方法や実践に関する発表、講演等 インターンシッププログラムで講演「日本事情の教授法」(1995年3月)</p>
担当授業科目	<p>2022年度</p> <p>「日本語1a」「日本語1c」「日本語2aA」「日本語2bB」「日本語2cA」「日本語2dB」「日本語スキル1・2」「ビジネス日本語1・2」「現代の日本語」「基礎ゼミナール」「展開ゼミナール」「専門ゼミナール」「卒業プロジェクト研究」</p>
代表的シラバス	<p>ビジネス日本語1</p> <p>留学生の就職活動に必要な総合的な日本語スキルを高めていく授業となる。社会の現場で用いられる実践的なビジネス会話、文書作成、マナー、および新聞の経済記事の読み方などを習得する。また、場面に応じたさまざまな敬語表現を理解し、実際に使えるようにする。</p>
教育改善活動	
教育能力に対する評価	<p>(1)学生による授業評価</p> <p>(2)同僚教員等による授業評価 特になし</p>

研究業績

研究の特徴	日本語教育の中でも、特に中上級の誤解教材の開発、教授法、評価に強い関心をもって実践と研究を続けています。	
研究経歴	1986年	3月 文部省研究協力指定校実績報告書「中上級の日本語教育の研究」(サンシャイン外語学校)
	1987年	3月 文部省研究協力指定校実績報告書「中上級の日本語教育の研究」(サンシャイン外語学校)
研究実績	(1) 著書 (2) 学術論文 1993年 3月 昭和初年代の小林秀雄「文芸評論」「続文芸評論」「続々文芸評論」を中心に(早稲田大学大学院文学研究科修士論文) (3) その他の研究活動(国際会議発表、学術誌編集、学術論文査読等)	
競争的資金 採択	1986年 文部省研究協力指定校実績報告(分担)「中上級の日本語教育の研究」 1987年 文部省研究協力指定校実績報告(分担)「中上級の日本語教育の研究」	
学会等発表・役員参加	1992年	10月 昭和初年代の小林秀雄(早稲田大学国文学会)
受託共同研究の実績		
大学院生指導		
対研究する能力に		

サービス活動業績

学内委員会・作業部会等活動実績	
アドバイザー活動実績	基礎ゼミ、展開ゼミ、専門ゼミ、卒業プロジェクト研究などで担当する学生に対してアドバイザーとして面談などの個別指導を随時行っている。
後進育成活動実績	
社会貢献活動	<ul style="list-style-type: none"> (1) 講演会 (2) 出前講座 山梨県内の高校での出張講義 (3) 公開講座 (4) 学外審議会・委員会等 (5) その他

成果と目標

専門的成果	<ul style="list-style-type: none"> ① 遠隔授業に対応した日本語教育の方法を模索し、一定の手応えを得た ② 遠隔授業における日本語教育のドリル、テストの開発 ③ 日本語の読解教材の作成と編集
専門的目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 遠隔授業に対応した教授法の研究、教材、ドリル、テストの開発と改良 ② ポピュラーカルチャーにおける日本語表現の諸相と変容を考える ③ 引き続き、主として読解教材の作成と編集を続けたい

作成基準日	2023年3月31日
-------	------------